

まちづくり懇談会 上矢作

日時：平成 30 年 9 月 25 日（火）午後 7 時～8 時 30 分

場所：上矢作コミュニティセンター

4. 「はたらく」「たべる」「くらす」の政策について

■企画部長 この地域の自治区の取り組みを紹介する。本来なら地域自治区の会長から説明頂くところだが代わって私が説明するので、補足があれば会長から後でお願いしたい。

恵那市では第 2 次総合計画として平成 28 年度から 37 年度の 10 カ年計画があり、これに合わせて、平成 27 年度に 13 地域自治区ごとに地域計画を策定し、これに基づき各地域でまちづくりをして頂いている。そのために必要になる地域のまちづくり補助金を、毎年地域から申請頂き交付している。当地域でも運営委員会でこういうことがされている。今年度上矢作は 8 事業で 150 万 7 千円の交付決定をしている。その補助金の他に、使途を制限しない交付金を、13 地区の均等割で 130 万円を出し、合わせて 280 万 7 千円で自治区の運営と活動をして頂いている。

上矢作地域計画のキャッチフレーズは「子どもからお年寄りまで 安心して暮らせるまち 上矢作」。計画の柱が 4 つある。補助金を使った主な事業を簡単に紹介する。

地域ぐるみで健康長寿を目指すまちづくり事業。計画の柱 1 に該当する。実施団体は上矢作健康・福祉部会。内容は市民講座との連携によるウォーキング、地のもの感謝祭でのウォーキングイベント。

上矢作の「食」伝承事業。計画の柱 2。実施団体はふくちゃん工房、石川トマト、佐藤農園、ふくふくパン。内容は上矢作中学校との連携による伝承講座。町内の中学生へからすみやこんにやくを味の伝承として講座を行った。

かわやはぎプロジェクト事業。計画の柱 2。実施団体は上矢作オールスターズ。内容は投げ網体験、つまり川の魅力発信。今年は河川の増水により室内での体験イベントを実施。

自然資源の保全・活用事業。計画の柱 2。実施団体は文化財等保護部会。国有林「アライダシ自然観察教育林」を守る会によるガイド講習会。新田の桜を守る会による新田の桜祭り。

ハナモモによる地域活性化事業。計画の柱 2。電力王福澤桃助先生の上矢作での偉業をたたえ、150 周年記念式典が行われたところだが、上矢作地内には桃介の関係の発電所が 4 つもあり、このセンターにあるハナモモは、その福澤桃助さんがドイツから持ち帰ったと言われることを通じて、ハナモモを上矢作に多く植栽して活性化を図る。市へはハナモ

その公園の整備の要望も今年頂いている。

かみやはぎトマトで「農業で暮らす」を伝える事業。計画の柱 3。実施団体は上矢作トマト組合、上矢作自然産業部会。内容は上矢作トマトのピーアール。直送販売、地のもの感謝祭で朝採りトマトを販売。

ふるさとの魅力再発見！文化が継承されるまちづくり事業。計画の柱 4。実施団体は伝承芸能保護部会、子育て定住部会。内容は上矢作の魅力再発見するフォトコンテスト事業、上矢作の文化を後世に継承する事業。今年は大井町との連携事業で、太鼓の連携もしている。

地域ぐるみで安心な子育てが出来るまちづくり事業。計画の柱 4。実施団体は上矢作子育て定住部会。内容は学童クラブひなたぼっこ。今年 7 月 1 日から小学校の敷地内に移転して実施している。子育てサロン『陽だまり café』は、生き生きサロンの方々と世代間交流を行った。

住んでみたくなる、「つながり」あるまちづくり事業。計画の柱 4。実施団体は上矢作子育て定住部会。内容は移住者の困りごとに答える継続的な支援活動、恵那暮らしサポートセンターの空き家情報を元に現地調査を実施。

全体を通じて、上矢作は、他の地域ではイベントを中心としたものが多いが、的確に課題を捉えて、色々な団体がまちづくり活動に参加している。非常に良い傾向だと思う。引き続き塚田会長を下にまちづくりを進めて、キャッチフレーズにある「子どもからお年寄りまで安心して暮らせるまち上矢作」を目指して頂きたい。

■市長 上矢作町の状況と事業等について。

上矢作の人口の推移。右肩下がり。2 千人を切っている。世帯数が減っている。世帯数が減ると人口の減り幅が割合としては増えてくる。頑張っていきたい。一緒に行わせてほしい。平成 17 年を 100 としたとき、恵那市は-10.9%。上矢作町は-27.1%。一番急なラインになっている。ここを何とかしたい。

出生数は、近年、5 人、5 人、7 人。ちょっと少な目だ。前が 12、3 人でずっと推移しているのでは若干減ってきた。昨年は 7 人でその前が 5 人、5 人なので若干上向いた。小学校と中学校の平成 30 年度と 35 年度の数。小学校は 69 人が 35 年に 56 人で 13 人減少する。中学校は 39 人から 39 人のまま。この後ぐっと減り始める。ここを何とか、移住する人や、孫に戻ってきてもらうとか、色々な取り組みをすると良い。

この地域の事業について。

この建物、コミュニティセンターの空調の改修を今年予定している。2500 万円である。

市道上矢作 13 号線。部分改良で、過疎計画に位置付けられたもので、30 年度に事業費 1700 万円の予定で直す。暗沢林道はずっと行っており、全体で 504m、1 億 2 千万円の事

業で、平成 30 年度は 65m、2 千万円。国道 418 号の川を渡る手前は、全体で 405m の改良予定で、30 年度は上下水道の移設補償、用地で 8 千万円、市道の付け替えのところを行っている。

鳥獣害対策。昨年少し話が出たのでいくつか探したものを持ってきた。地域ぐるみの鳥獣害対策の支援。平成 27 年にはサルの捕獲檻を 1 つ設けた。国の補助事業で約 170 万円。平成 29 年度は電気牧柵、150 万円。5 段張り、こういう大規模なものも行った。まだまだ色々な被害が出ていると思う。

上矢作の自主運行バスは、現行のバスを修理出来なくなったので、今年度、新しいバスが入る。12 月ぐらいに納車される。

国保上矢作病院。26、27、28、29 年は、入院外来を含めて述べ患者数は 78%、若干減り気味だ。ぜひ皆様の力で上矢作病院を盛り上げていきたいと願っている。訪問看護ステーションは若干増えており 104%。色々な形で利用して頂きたい。近隣の方を含めてこの病院を使って頂きたい。

福寿苑は 28 年 4 月に指定管理にした。70 人の定員に対して稼働率が 99% を上回っている。ほぼフル稼働に近い。デイサービスも 25 人の定員に対して 70% 以上の稼働率。経営的にも良く回っていると思う。引き続き地域の皆様の御支援をお願いしたい。

道の駅ラ・フォーレは 30 年度に詳細設計を行っている。地元の皆様と協議を進めている。来年は工事に向けてスタートを切りたい。

観光施設で指定管理に出しているのはコテージが 2 つ、モンゴル村等もあり、それぞれ利用者が、越沢で 4 千人を超えている。かわせみは千人弱、モンゴル村も 2,300 人。素晴らしい施設なのでピーアールして一緒に利用者を増やしていきたい。

その他にもいくつか魅力的なものがある。たとえば澄ヶ瀬やな、鮎の友釣りもある。風車、地のもの café がある。上矢作は他の地域と比較して皆さん熱心に取り組んでいる。自然も含め素晴らしい素材があるのでそれを使いながら、人の減ることに取り組んでいきたい。

中学校の統合について 9 月議会で一般質問があった。すでに答申を頂いて動いているが、いくつか、きちんと説明出来るだけの材料がそろっていない。18 項目をテーマごとに整理している。14 項目まで出来たが、残り 4 つがある。作業をすべて完了したら改めて皆様方に説明する。時間がかかっているが申し訳ない。

5. 意見交換

■司会 上矢作のまちづくり事業に取り組んでいる方々から活動報告、成果、課題、恵那市の施策についての提言、提案をお願いします。地区や所属団体名、名前を言った後、着座で発言してほしい。

■市民1 上矢作の漆原に住んでいる。多くの町民の御理解、御協力により8月30日に新会社を設立した。この会社の目標は、来年度から道の駅及び宿泊施設の運営を行っていききたいということ。そのために運営の資金と町民の協力が必要なため、現在進行中だが、チラシを出し、多くの皆様に協力頂いている。今日現在53名に協力頂き、出資・協力金も420万円ほど集まっている。心より御礼申し上げます。しっかりやっていかなければならない。

上矢作の人口は年々減少し空き家も増えている。買い物にも隣町まで出ていく。ただ、僕も外に出てこの町に帰ってきて、上矢作の素晴らしいところはたくさんあると思った。きれいな川、きのこの生える山、顔を見ればどこの子なのか分かる地域とのかかわり、そんな上矢作の拠点になっていくのが道の駅及び周辺施設だと思う。町民が精魂込めて作った野菜を朝出荷して頂き、それを道の駅に出して頂き、モーニングをしながら交流してもらったり、お昼には清流矢作川の川魚、山菜、きのこなど、そのときに上矢作で味わえる食材の提供を目指していきたい。

そのために、発起人メンバーにもかなり協力頂いているが、各部門を作り、部門ごとに責任をもって運営を行っていききたい。

たとえば、道の駅にもたくさんの野菜が並んでいるが、どうしても商品がかぶったり、採れたものがたくさんになったりということがあるので、春夏秋冬さまざまな野菜が手に入るように、発起人代表にもかかわって頂き、出荷組合を作り、そのときの売れる野菜、ニーズに合わせた野菜づくりや情報共有を図っていききたい。またそのような野菜、果物、川魚など、レストラン部門が中心になり料理を提供していく。上矢作に来ればこれが食べられる、おいしい川魚が食べられる、秋にはきのこが食べられる、そういうものを出していききたい。

観光部門では、道の駅前の川のヨシがすごく子どもが安心して遊べない。子どもが上矢作の川に触れられるようにして、それでまた戻ってきてくれればと思う。モンゴル村やコテージかわせみ、越沢コテージといった宿泊施設があるが、老朽化が進んでいる。設備の点検と大胆な改装を行って集客を図る。さらに町民デーを作ったり、昼はバーベキューという利用をしていききたい。僕は上矢作オールスターズという若者団体を作った。そのときからずっと夢がある。そのときのお母さん世代が、一番上矢作にほしいものは公園と言われた。確かに上矢作には安心して遊べる公園がなかなかなく、まだ出来ていない。道の駅の裏に創造の森という牧草地があるので、そこを活用してアスレチック、トレッキングコース、ハナモモの散策など、家族で一日遊べる観光施設にしていきたい。上矢作に宿泊に来た人に聞くと、上矢作は泊まる場所があっても遊ぶところがないと言って帰る人がいるとのことだ。そういうことのないように、上矢作で一日遊び、夏には川に入って

頂き楽しい思い出が作れるような観光施設、町、事業の協力をしていきたい。

簡単ではない。僕一人でも出来ない。厚かましいのも承知で町民の皆様をお願いしていることも分かっている。この計画が何とかうまくいくように、そして上矢作が元気になれるように、人口減少に少しでも歯止めが効くようにやっていきたい。

■司会 市役所からもコメントがあれば手を挙げて発言してほしい。

■市長 私も市の立場として出来る範囲の応援をしたい。まず第一歩の道の駅のリニューアルに向けた取り組みは間違いなく行う。それ以上に、今日ここにおいでの皆様にもお願いしたいのは、若い人が立ち上がろうとしているので、ぜひ支えてあげて頂きたい。若くて頼りないかもしれないが、こうした若い力があって、上矢作って何となく変わったなという印象になると思う。期待して良いと思う。私も応援する。町民を挙げて応援してほしい。

■司会 温かいお言葉ありがとうございました。

■市民 2 昨年の地域懇談会でも話したが、移住定住部会では人口減少と子育て世代が少なく高齢者が多いという問題を自分たちの力で改善するため、私も含め 3 年前から活動している。昨年市長との懇談会で、はたらく、くらす、たべるというテーマの下に、僕たちの活動をサポートしてほしいという話をした。

昨年から上矢作ではトマト就農を目指す研修生等の受け入れをしながら、働く場所、若い人の移住定住を促進する活動をしているが、単身者や研修生が住むところがなく、なかなか空き家とのマッチングが難しい。若者住宅や、公営の住宅に空きがあるが縛りがあるって住めないというところを、何とか行政で力添えをしてほしいというお願いをしたところ、早速規制を緩和し、今年は 4 戸の単身者向けをやって頂き、8 月 15 日から 30 日までの 2 週間で 3 件の要望があった。市の働きかけに対して町としてもレスポンスがあるということですごく有り難いと思っている。

今年の提案として、今、上矢作もまちづくり推進員を市からも派遣して頂き、移住定住だけではなく 7 つの活動部会、みんなの事務局的な活動をして頂いている。特に移住定住部会では、移住を希望する市外の人や、町内の空き家との橋渡し役や、移住してきた人のサポートをして頂いている。3 家族ぐらいが毎年移住して定着している。ただ、転出する人口も年々増えている。地元にいる人も残ってほしいし、外からも入ってほしい。あとは子育て世代が安心して暮らせるようにしたい。そういうサポートをしているまちづくり推進員の存在が大きく、有り難いと思っているが、上矢作は今年で打ち切りだと聞く。せっかくみんなで力を合わせてやっていこうというときなのに残念だ。来年からも延長して頂き、僕たちの活動の支援をしてほしい。

出生数も 8 月末で 3 人減っている。まちづくり会社を作ったり、学童保育も自分たちで

活動して進んでいるので、まちづくり推進員も継続してほしい。

■市長　そこまでまちづくり推進員を頼りにしてくれているのは嬉しい。まちづくり推進員というのは恵那市独自の言い方で、国では集落支援員といい、総務省で制度化されている。ふるさと活性化協力隊と同じように、国の支援が受けられるものだ。市内で 5、6 人いる。制度のことでこの場で来年も良いとかは言えないので、国の制度も含めて検討したい。なるべく良い返事が出来るように調整してみたい。

■司会　昨年度同様前向きな返事が聞きたい。

○鳥獣害対策

■市民 3　鳥獣害で困っている立場からお願いしたい。

記録を調べると、平成 25 年の市長懇談会で大型のサルを捕獲する檻をお願いして、平成 27 年の 10 月 21 日、本郷広表地区に設置して頂いた。1 基が非常に高いが予算を付けてもらった。非常に効果があり、大きな群れが檻に入ることで、頭数がどんどん少なくなり、今年までに 56 頭が捕獲された。それまでは大変で、農協上村支店の A T M に女性が入ったらサルが同時に入ってきて足首を噛まれる、子どもたちが集団登校していたところを襲われる、警察官も引率していたがそこを狙われる等のこともあった。檻の効果は絶大だ。

今はずいぶん減ってもういないかと思ったら、ときどきはぐれのサルがいて悪さをする。軒下の玉ねぎを持っていくようなことはしょっちゅうある。今年はまた栗、柿に群がっているのを見る。十何匹ぐらいでそう多くはないが、このまま放置するとまた大きな群れになるのではないかと心配である。今年 1 月 31 日に檻で 2 頭捕獲された後、8 カ月捕獲出来ていない。

■市民 4　檻を造って頂きありがとうございます。免許更新の費用の免除も市から頂き有り難く思っている。助かっている。

今月 9 日に中津川市付知の中屋に大型檻を造った。移動型で非常に便利なものなので視察に行った。兵庫県の会社が造ったものだ。足元から屋根まで縦のパーツをいくつか組み立てて造る。価格は約 93 万円であるが、中津川市役所の担当者に聞くと今は 70 数万円だという。阿木では今年度別会社のものを 1 つ導入する。40 数万円のものである。まだ設置していないので確認出来ていない。他にも移動型の檻はある。視察して効果があつて安いものを狙いたい。56 頭で助成が 1 頭 3 万円とするといくらになるか。その通りなら自由に購入出来るはずだが、今年度 2 頭で、保険金、えさ代など色々かかるので、2、3 年後を考えるとお先真っ暗だ。

付知のものは今年 2 月に設置し、6 月 29 日までにサル 15、えさを捕りにくるハクビシン、これは有害鳥獣の許可を取っており、4 頭の実績がある。その資料を見ると、2 月 15 日に大型檻を設置、16 日に餌付け（えづけ）開始（地元スーパーなど提供）と書いてある。

入らないときほどえさをどんどんやる必要がある。上矢作は営農組合が畑を貸してくれて、サツマイモの苗も買ってくれて、トラクターも貸してくれ、協力態勢が良い。知り合いの長野のリンゴ農園からトン単位でくずのリンゴを誘導してもらい、えさは何とか間に合う。ただ時期によってはえさがなくなる。ニンジン1つを何百円かで買うような現状だ。

あとは皆さんにお願いしたいが、被害があり困っていることが市に通じていない。皆さんが慣れ過ぎていて、いつものことだということになる。市では被害の実態がつかめない。先日も恵那の各地区の数字を見た。上矢作は1、2割だった。間違いなくもっとあるはずだ。各地区に協議会の担当者がいるので、その人に電話してカメラで撮って報告するように頼めば十分だ。被害状況を表面に出すことが大事だ。

2つ目は後継者の育成。後継者がほとんどいない。こちらに来て12年経つ。12年前と今はかなり違う。空き家、耕作放棄地が多い。草が生えれば獣もそこまで出てくる。市でもそういうところを見てくれて、免許を取るための助成があるので、それを皆さんが活用し、若い人がその気になってくれないといけないと、5年10年先は困る。「こんなところに住めるか」、「野菜を作ってもサルに食われるだけだ」ということになり、出ていかなければいけなくなる。害獣は一転するとその地域の特産品になるとも言う。それも考えながら、今後も上矢作の有害鳥獣対策を若い人も含めて考えていかないといけない。

今風車のところの牧場が空いている。あそこでイノシシを飼うことは出来る。1年生、2年生、3年生の檻を分けて造ることが可能だ。食肉産業をすれば働き手が増える。イノシシ牧場をやれば風車と合わせて人も集まる。ただ道が難点で、大型バスもトコトコ恵ちゃんも上がれない。

自分たちでやるという気持ちを持たないと何をやってもだめだ。みんなで応援するかどうかで全然違ってくる。

■市民3 提案。恵那市では移動式罠、檻が1カ所も設置されていないので、阿木で設置される予定だが、移動式ならサルが出るところに持って行って、サルが学習しないうちに捕獲出来るので設置したい。

■市長 2年前の選挙のときにも上矢作で申し上げた。上矢作は高齢化率も人口減少率も一番高い。ある意味で今の日本の先を走っている。将来都市部、大井町や長島町もこうなるというのを上矢作が先を走っている。この地域で色々なことにチャレンジして、うまくいったら他の地域に応用するという気持ちで良い。檻の件もそうだ。有害鳥獣については担当者を行かせるので、話を聞き、何が出来るかを色々なアイデアを出してもらい、いくつか実験的にやり、うまくいけばそれを他の地域にも応用する。それが出来ると良いと思う。まず戻って一度指示を出す。

6. 市長お礼のあいさつ

■市長 大変お忙しい中お集まり頂きましてありがとうございました。そして熱心に話合われて意見をまとめて発表頂き、本当にありがとうございました。みなさまの想いをなんとか形に出来るよう、担当含めて考えてまいりたい。市議会も共に一緒になって考えて、この地域がこれからも安心して将来がみえるようなまちづくりを進めていきたい。みなさまの意見を引き続きお待ちしている。

■自治連合会会長 みなさまも熱い想いをもち帰って、みなに伝えてほしい。

■司会 これにて閉会する。

[閉 会]